

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	健康福祉行政、福井県こども計画(仮称)の策定について (田中三津彦議員)	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>田中議員 政府は今年のこども基本法施行により、都道府県にこども計画の作成を求めている。福井県は、アンケートで子育て世代や子どもの意見を反映させた福井県こども計画(仮称)を策定予定である。</p> <p>この計画は既存の子ども施策計画と統合され、県民にとってわかりやすく、負担軽減の効果が期待される。また、各市町は国の大綱と県計画を考慮して計画を立てる必要があり、県全体での施策推進には市町との連携が重要である。</p> <p>そこで、計画策定における市町との連携状況と県の施策の方向性についての所見を伺う。</p>		
<p>鷺頭副知事 子ども子育て施策の推進において、市町の役割は極めて重要。福井県の子ども計画は、今後順次策定される市町の計画としっかり連携しながら策定する。6月12日開催の有識者会議には市町もオブザーバーとして参加し、今後も市町との意見交換の場を設けて計画内容を共有する。</p> <p>有識者会議では、子育ての喜びや生きがいを感じるポジティブなイメージ発信や、男性の家事育児分担の重要性が指摘された。県は、出産や子育ての希望が叶い、何よりも幸せが実感できる社会の実現を目指し、市町とともに関係者や子どもの意見を丁寧に聞きながら計画を進める。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	教育行政について（田中三津彦議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>田中議員</p> <p>教育現場では、子どもの数の減少や教員の労働環境の改善などの課題に対処しつつ、福井の将来を担う子どもたちを育て、県外に進学しても福井に帰って就職してもらえる取組、環境整備することが求められている。</p> <p>今年度、教育に関する大綱に基づく新たな教育振興基本計画が策定される。この計画には、ICT教育の充実、地域との連携強化、部活動の地域移行、教員の働き方改革、教員不足の解消などの課題に対応した施策が含まれると考える。教育委員会には、産学官連携により子どもたちの活躍の場を増やし、教職員が生きがいを持って働ける環境の実現を期待している。</p> <p>そこで、本県を取り巻く教育の現状を踏まえ、新教育長の藤丸氏の抱負と決意を伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>本県では令和元年度に策定した教育大綱に基づき、一人一人の個性が輝く福井の未来を担う人づくりを基本理念に、子どもたちの夢と希望、福井愛を育む教育を進めてきた。人口減少時代において主体性を持ち挑戦し続ける人材が必要と考え、以下の2点を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもたちに学ぶことの楽しさを実感してもらうこと。好奇心を引き出し、自ら学ぶ意欲を高める工夫が必要である。また、学校を地域社会に開き、社会人との接点を増やすこと。様々な分野で働く人々の生き様を見せることで、子どもたちの関心を広げ、学びへの意欲を高める。 子どもたちとともに福井の未来を考えること。長期ビジョンを策定した経験も生かし、福井の未来や地域政策を考える地域デザイン講座を展開する。地域の未来を考えることは自分の将来を考えることにつながる。地域社会を支える自覚を促し、人生を考えるきっかけとする。 <p>こうした学びの充実のため教職員の働き方改革を推進し、働きやすさと働きがいを両立する職場環境づくりにも力を注ぎ、現場で奮闘する教職員への敬意と感謝を忘れず、教育行政の発展に努める。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	地域みらい留学について（田中三津彦議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>田中議員</p> <p>昨年度から若狭高校と丸岡高校が都道府県の枠を超えて入学者を受け入れる地域みらい留学を実施しており、若狭高校の1期生は地域の祭りに参加し、地元の人たちと交流するなど成長している。今年度、若狭高校では能登半島地震の被災者を含む6名が若狭寮で生活しながら頑張っている。この制度により県外からの生徒が県内の生徒と切磋琢磨し、地域交流を通じて福井の良さや温かさを知り、卒業後も住み続けることが期待される。また、人口減少対策としても有効であり、他の高校への導入も期待される。県はR8年度の入試から勝山高校にも留学枠を設ける方針で、寮の建て替えなどの準備を進めている。</p> <p>そこで以下の点について、教育長の所見を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none">1.若狭高校と丸岡高校における初年度の評価について。2.勝山高校の留学生受入れ準備状況について。3.募集人員や受入校の増加予定について。 <p>藤丸教育長</p> <ol style="list-style-type: none">1.若狭高校と丸岡高校合わせて昨年度9名、今年10名の生徒を全国から受け入れた。生徒は地域行事に積極的に参加し、地域への愛着を深めている。商店街が割引などで留学生を応援し、地域全体でサポートする気運が高まっている。2.来年度から募集を開始し、令和8年度の受け入れを目指して準備中。留学生30名定員の寮を整備予定で、来月に事業者を決定。恐竜博物館や新設の県立大学恐竜学部との連携、特別なカリキュラムを整備して全国から留学生を集める計画。3.地域みらい留学は県内外の生徒が互いに成長し、地域活性化に寄与する。交流人口の増加や学校経営にも有益。募集人員や受入校を増やすには、居住環境の整備コストや市町の協力が必要。まずは現在の高校で定員を安定的に確保し、魅力向上を図ることが優先。		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	教員の働き方改革について（北川博規議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>北川議員</p> <p>福井県は家庭や地域の教育への関心の高さ、教員の質の高さに加え、国の基準を上回る教職員配置により、全国と比較して高い学力を維持している。今年度、第4期福井県教育振興基本計画の改定が行われる。教育環境の変化に対応し、特性の維持向上を図ってほしい。</p> <p>教員の働き方改革が急務であるが、教員採用試験の受験者倍率は過去最低の2.56倍と、教職希望者が減少している。また、若手教員の割合が増える中、産休・育休取得者の増加による代替教員の不足。不登校や発達障がいのある児童生徒、外国にルーツを持つ子どもたちの増加など、多様性への対応。と、教員を取り巻く環境は過酷になってきている。</p> <p>教職員が働きがいを持てる環境づくりの具体的な政策について所見を伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>教職員の仕事の魅力は学習や学校生活を通し、子どもの可能性を引き出し、成長を支えることにある。現場で子どもと接し、身近に成長を感じ取れることがやりがいである。教職員が子どもと関わる時間を確保するため、以下の通り学校の業務改善を進め成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職による勤務時間管理の徹底 ・外部人材(学校運営支援や部活動支援員)の登用 ・校務支援システムの導入 ・小学校高学年の教科担任制の拡充 <p>今後は、子どもが学びを楽しむ工夫や学校の業務改善など、成果を上げた教職員を表彰する仕組みの創設を考えている。</p> <p>学校、家庭、地域が協力し合うのが教育。学校や教職員が地域と保護者から信頼される環境を作る。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	教育振興基本計画の総括と今後の改善点について（北川博規議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>北川議員</p> <p>6月3日に開催された、第4期福井県教育振興基本計画策定に向けた推進会議での、子どもの主体性育成のための総合的な学習時間活用、大学卒業後に福井に戻ってもらうための地元への関心・愛着を持つ教育の必要性などの議論を踏まえ、引き出す教育、楽しむ教育を柱にした現計画の5年間の総括と、今後の改善点について、新教育長の考えを伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>現計画では以下の3つの観点で子どもを主役に置いた教育を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数教育や英語教育の拡充、一人一台端末の導入などの個性を引き出す教育 ・高校生プレゼン甲子園や小学生向けサイエンスショーの開催などの学びを楽しむ教育 ・ふるさと教育フェスタの開催や職業高校での共通科目、福井の産業の解説など地域の理解を深めるふるさと教育 <p>推進会議では、地元への関心や愛着を持つ教育の強化や、教員の働き方改革が教育の質向上につながるとの意見が出された。</p> <p>次期計画では、学ぶ楽しさを実感すること、自分の将来を主体的に描くこと、教職員が自信と誇りを持って働ける環境づくりを検討していく。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	教員の働き方改革について（中村綾菜議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>中村議員</p> <p>農林高校や坂井高校のジャム販売や鯖江高校体操部OBのオリンピック出場など、本県の特 色ある高校教育の推進、人材育成は素晴らしく、探求授業の活性化により社会課題を主体的 に考えられる子どもも増えている。</p> <p>一方、R4年度、県内の小中学校では不登校児童がコロナ禍で300人増え過去10年で最多の 1404人となった。課題の多い現代、子どもたちへのきめ細やかな対応が求められる一方、先生 方の負担は増えており、従来の公教育は新たな課題に直面している。</p> <p>本県がこれまで力を入れてきた、学力・体力日本一を確保する教育、英語教育の推進は素 晴らしい教育だったと思うが、今こそ競争的な学力向上政策を転換し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の学び合いを大切にする学習のあり方 ・子どもたちの個性や特性に合わせた多様なニーズへの対応 ・通常学級の小規模化 ・専門性のある新スタッフの配置像 <p>など、教育条件の抜本的な改革が必要と考える。</p> <p>児童生徒の育成について、またどのような力の育成が大事かについて考えを伺った上で、教 育や教育条件の抜本的な改革についての所見を伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>本県では、教育に対する大綱及び計画基本計画に基づき、一人一人の個性が輝く福井の未 来を担う人づくりを基本理念に、福井愛を育む教育を進めており、重点施策として、子どもの主 体性を大切に個性を引き出す教育、知的好奇心や探究心を育てる学びを楽しむ教育、地域に 貢献しようとする心を育むふるさと教育を進めている。</p> <p>教育改革という点では、既に子どもを主役とした教育へと転換が図られており、今後はさらに 多様性を尊重するという観点から、誰一人取り残されず、個性が尊重される学びの環境づくり にも力を入れたい。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	不登校支援・個性に合った学習機会支援について（中村綾菜議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>中村議員</p> <p>校内サポートルームや夜間中学の開設などの不登校支援は、とてもありがたく思っているが、子どもたちの個性や特性に寄り添っているか、主体性を育てているか、意欲はどれだけ育てられているか、未来のある子どもたちに多様な選択肢として学びの場を用意していくことは差し迫った課題だ。</p> <p>学校だけではなくフリースクール、オルタナティブスクールなど子どもたちの個性や特性にあった学習機会への支援も必要なのではないか。</p> <p>不登校支援についての考え、子どもたちの個性や特性に合った教育、主体性や意欲を育む教育についての考えを伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>不登校支援として、全ての教職員が日頃から児童生徒の様子をきめ細かく観察をし、教職員間で情報共有をしたり、児童生徒が休み始めた時期には担任が面談や家庭訪問を実施するなど、初期対応に努めている。</p> <p>さらに、小中学校においては、校内に教室とは別の居場所として校内サポートルームを設置しており、R4年度は2校、そして5年度は5校、今年度は50校に拡大をした。サポートルームでは、子どもたちの属性やニーズに寄り添いながら、一人一人に合わせた活動や学習支援を行っており、児童生徒の主体的な学びや意欲向上にもつながっている。</p> <p>県内でも、フリースクールやオルタナティブスクールなど学校に行きづらさを感じている子どもたちを支援する取組が広がってきており、今後も民間の皆さんとの情報交換を行い、様々な形で子どもたちの居場所づくりに努める。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	キャリア教育の推進について（中村綾菜議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>中村議員</p> <p>子どもの生きる力の育成、地域への定着の観点から、学校での学びと実社会の結びつきを教え、学習意欲を向上させるキャリア教育は重要であり、各学校で取組んではいるが、学校任せになっているところが課題である。</p> <p>福井市では教育委員会が各企業団体のキャリアプログラムを一覧表にまとめ、学校に提供しているほか、キャリア教育コーディネーターを中心に各種団体企業、学校をつなぐ福井市キャリア教育プレミグラム事業をH29年度から実施している。</p> <p>この仕組みは県内全域に広げることも一つではないか。キャリア教育推進についてどの考えを伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>福井市では、商工会議所等と連携して子どもたちが職業を体験するお仕事探検アントレキッズや、地域の大人たちから働く意義を学ぶまちの担い手づくりプログラムなど、多様な講座を用意し、出前授業等を行っている。</p> <p>ほかの市町でも、地元団体や企業の協力を得て、職場体験や出前授業などを行っており、小浜市では、小中高生を対象とした経営者による出前授業や職場見学を行う、ふるさとしごと塾。鯖江市や坂井市では、商工会議所等を中心に中学生に職場体験の機会を提供している。</p> <p>県としても、小中高生が地域の魅力を発信するふるさとふくいCMコンテストや、県内企業や研究者による中学生向けの理系人材育成出前授業などを実施しており、引き続きこうした取組を充実させ、福井への誇りと愛着を育み、将来のキャリア形成にもつなげたい。</p>		
その他特記事項		

外部関連各種情報等記録表

福井県PTA連合会 任意様式

題名	小中学校での学校給食及び高校での給食提供について（中村綾菜議員）	
情報元	福井県議会 6月21日速報版	
入手日	令和5年7月10日	
作成者	所属： 小浜市 小浜中	氏名： 細川和宏
内容		
<p>中村議員</p> <p>児童生徒の健康保持、増進を図る学校給食は、アレルギーの増加や食生活の乱れ、保護者の経済的困窮などその環境が変化している。</p> <p>食材価格の値上がりにもかかわらず、1食当たりの食材費はほとんど変わらず、小中学生の栄養摂取への影響が心配であり、給食のない高校生の栄養摂取の偏りも心配である。</p> <p>働く母親からは、高校での給食提供を望む声もある。</p> <p>富山県立南砺平高校はH4年から完全給食を実施。愛知県の中高一貫県立高校ではR7年から給食を試験導入する方針。宮城県三陸町の志津川高校ではR4年から、おかずは町の学校給食センターから届き、ご飯やパンを生徒が持参する仕組みになっている。</p> <p>そこで、小中学校での学校給食の地産地消のさらなる増進、有機農産物を使用した学校給食の提供、子どもの栄養を確保する給食、また学校での給食提供についての考えを伺う。</p> <p>藤丸教育長</p> <p>小中学校における学校給食では、上庄さといも、越のルビー等、県産、地元産の食材を積極的に活用しており、学校給食会では、未利用魚のイワシを使った餃子や、東浦みかんクリーム大福等、県産食材の加工品を開発し学校へ提供するなど、地産地消を進めている。今年度は、農林水産部と連携し、県産の有機米、特別栽培米を市町の希望に応じ提供する予定である。</p> <p>また、近年の食材費高騰の影響もあるが、市町において食材の種類の変更、また有効活用など、様々な工夫によって必要な栄養の確保に努めている。</p> <p>なお、高校における給食提供については、学校給食法に基づき給食の提供は義務教育においてのみとしており、新たな施設整備、人員の整備など課題も多く、実現は困難であると考え</p>		
その他特記事項		